ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学　所属：現代社会学部　名前：海老 良平　作成日：2024 年 1 月 9 日

１．教育の責任

観光・地域マネジメント専攻の教員として、観光ビジネスに関連する職業だけでなく、幅広く地域に貢献できるような人材の育成を目指す教育を行っている。加えてキャリアデザイン、ゼミナール、卒業研究においては、社会人基礎力としての読み・書きが正しくできるような文章力、読解力の向上を図ることに重点的に取り組んでいる。これらの教育方針は本学の掲げるリベラルアーツ教育に則ったものであり、建学の精神である「STUDY FOR LIFE」を体現する教育のあり方であると考える。また、専門分野の教育においては、観光を通じた現代社会への理解を深めるための知識や教養が身につけられるような教育を心掛けている。観光とはこれまでの歴史においても、それぞれの時代精神や社会環境を映す鏡だったと言えるが、特にコミュニケーション能力やホスピタリティ精神が求められる現代においては、観光と社会の関連性に思いを巡らせることは非常に重要であると考えられる。したがって、単なる観光に関する知識だけでなく、組織や社会の中での貢献や他者に対する思いやりのある行動ができる、本学卒業生として恥ずかしくない一社会人を育てることに責任を持って教育している。

２．教育の理念

大学 4 年間は長い人生の中で言えば、僅かな時間ではあるが、学生がその期間に培う、自身の生き方に対する価値観、そして大学生活の中で得た仲間は、彼らのその後の人生に大きな影響を与えるものとなることは言うまでもない。例えば 2 年生を対象に開催するゼミナールの募集説明会では、「ゼミナールの中で一生の友を作ってほしい」と伝えている。しがらみがなく、本音や悩みを打ち明けられる友人は人生の中でも僅かであり、学生が社会に出て、必ず直面するであろう、困難や壁を乗り越える大きな支えとなるのが、学生時代からの友人である。本学の観光教育の柱となるのはホスピタリティ精神の醸成であるが、ホスピテリティとは利害を越えて互いに支えあう、相互扶助の精神がその基盤にある。大学 4 年間という限られた時間の中で、彼らが数多くの人と出会い、そこから学び、また一生支えあえる仲間を見つけることのできる、そして生きる上で必要となる知識や教養を身に付ける、そのような機会を提供することこそが大学教員の役目だと考える。そのような教育哲学を持った上で、専門知識や技術を提供していくべきだと考えている。

３．教育の方法

【教育の目的と目標】

・必修科目においてⅠ（キャリアデザイン・卒業研究）

この二科目の主眼とするところは「伝える力」の育成である。キャリアデザインにおいては自らのキャリアについての考えをいかに他人に文章（レポート）として伝えられるか、そしてプレゼンテーションによって自らの過去・現在・未来を表現できるか、これらを学生に身につけさせることを目指している。また卒業研究においては大学 4 年間の学びを総括できるような文章を作成でき、さらにその文章表現力は社会に出て通用するものなのかについて、技術や物事の考え方を学生が正しく身に付け、理解できるようになることを目指している。

・必修科目においてⅡ（ゼミナールⅠ・Ⅱ）

この科目の主眼とするところは、専門分野の知識の習得とそれを形にすることができる能力の養成、さらにグループワークによる集団でのコミュニケーション能力、チームワーク、貢献の意識を身に付けることであり、それに即した教育を目指している。

・講義系科目において（観光の道しるべ、観光学ほか）

これらの科目においては、観光ビジネスに関連する知識の習得だけでなく、観光の学びを通して地域、現代社会を理解することができる幅広い教養や考察力を身に付けられるような教育を目指している。

・産官学連携 PBL 授業において（西宮まち・ひと・しごとリレー講義、地域ツーリズム演習Ⅰ（伊丹と灘の酒文化））

これらの科目においては、本学の特徴とも言えるクロスオーバー、クロスバウンダリー系の授業として、学外のゲストを招き現場の経験を学ぶとともに、座学だけでなく学外研修を取り入れる実践的な授業も行い、地域社会に関する幅広い視野と知識を得ることができるような授業づくりを目指している。

【教育実践】

・必修科目においてⅠ（キャリアデザイン・卒業研究）

表現力、特に文章表現力を高めるためには、個人指導が不可欠である。授業内及び授業外で可能な限り一対一の添削指導の時間を設けて、各々の文章力に見合った指導を実践している。個人添削によって自らの文章の不足点の気づきを与え、それに対して答えるという双方向のやり取りでの文章作成の教育を行っている。

・必修科目においてⅡ（ゼミナールⅠ・Ⅱ）

研究のテーマは大枠しか与えない。その投げかけたテーマに対してグループごとに議論させることにより学生が主体となった答えを導けるような教育環境を提供している。また、観光教育の性格上、座学だけではなく、地域社会と連携した学外研修を積極的に取り入れながら、研究活動を進めている。また、その研究成果は街歩きマップや情報紙の作成によって具現化し、学生自らの手によって一般に配布する機会を設けている。

参考）ゼミナールにおける活動実績

2020 年：「夙川・苦楽園・香櫨園街あるきマップ」。大学周辺の店舗を調査。2021 年度の大学・短大新入生全員に配布、ほか西宮市役所などでも配架。

2021 年：「兵庫津街歩きマップ」。神戸市兵庫区の寺社や碑を調査。兵庫県立兵庫津ミュージアム他で配布。2022 年 6 月 3 日の神戸新聞（インターネット版は 6 月 2 日）に掲載（エビデンス①）。

2022 年：「夙川コーヒー入門書」。夙川エリアの珈琲店を調査。2022 年 11 月 25・26 日に西宮阪急百貨店で開催された珈琲イベントで配布（エビデンス②）。

2023 年：「大手前大学×地下鉄海岸線街歩きマップ」。神戸市交通局との連携事業。地下鉄海岸線の沿線活性化を目的とした街歩きマップを制作し、海岸線全駅で配布（エビデンス③）。阪神間の情報タブロイド紙「OTEMAE TOURISM TIMES」を制作し、日本母性衛生学会大会で配布し、また後述（阪神南県民センターの支援事業）における連携先となった JR 芦屋駅、西宮駅、西宮市役所にて配架（エビデンス④）。

・講義系科目において（観光の道しるべ、観光学ほか）

1 年次配当の「観光の道しるべ」においては、可能な限り学生が関心を持つような旅や観光に関するテーマを選定して、わかりやすい講義にしている。その中ではテーマに沿った観光地や現在の観光の状況に関する知識を身につけさせたと同時に、そのテーマにまつわる大学周辺の各地域の歴史や文化、産業に話題を広げながら、現代の観光を考える際に不可欠である、幅広く地域を見ることのできる目を養うための教育を心がけている（エビデンス⑤）。

・産官学連携 PBL 授業において（西宮まち・ひと・しごとリレー講義、地域ツーリズム演習Ⅰ（伊丹と灘の酒文化））

地域の知識を幅広く学ぶために、地域で活躍する社会人を招いた講義、及び学外研修を実施している。このうち西宮まち・ひと・しごとリレー講義では西宮にゆかりのあるゲスト 12 名を招き、オムニバス形式で授業を行っている（エビデンス⑥）。また地域ツーリズム演習Ⅰでは歴史、建築といった観光以外の分野の本学教員に加えて、学外からもゲストを招き、また学外研修を取り入れながら、座学だけでは身につかない実践の知識も習得できるような授業を行っている（エビデンス⑦）。

４．教育の成果

必修科目、及び講義系科目における教育の実践により、学生また学内各所、さらに学外に次のような成果を上げている。

【学生教育の成果】

キャリアデザインでの教育方針、地域に根差した観光教育の学生への浸透を感じさせることが多くなった一例として、ゼミナールの応募動機に次のような種類の文言が目立つようになってきた。

例「キャリアデザインで書いたレポートをより深めて卒業論文まで繋げていきたいので 4 年生まで指導してもらいたい」「地元のことを全く知らなかった。もっと深く街を学んでいきたい」「コロナ禍でなかなか横の繋がりができない。仲間と一緒になって何か形あるものを作りたい」など

【地域連携への成果】

観光資源となる地域の歴史や文化、産業等を学ぶことを主眼に置いた講義、及びゼミ活動において、以下のような地域連携の成果を

上げている。

①神戸市交通局との協定：2022 年～2024 年の 3 ヵ年で連携関係を結び、ゼミナールにおいて各年で街歩きマップを制作し、配架した。2023 年は神戸市兵庫区内で調査を実施し、区内の 3 駅周辺の街歩きマップを制作した（前掲、エビデンス③）。

②兵庫県阪神南県民センターの支援事業認定：「令和 5 年度大学生による地域活性化支援事業」に認定された「阪神間モダニズムを基盤とした生活文化の観光情報タブロイド紙制作」の活動をゼミナールで行い、連携先の JR 西日本の芦屋駅 110 周年記念イベントに参加した。またその成果を阪神南地区の大学が集う「第 14 回阪神つながり交流祭」で発表した（エビデンス⑧）。

③苦楽園ストアーズミーティングとの協定：苦楽園ストアーズミーティングが制作する苦楽園情報紙『Go-En』への制作協力として、ゼミナールの学生 4 名が苦楽園の各店舗でインタビューを行った。

④産官学連携 PBL 授業：西宮市役所をはじめ、西宮ゆかりのゲストを招いたオムニバス授業「西宮まち・ひと・しごとリレー講義」を 2021 年から実施している（前掲、エビデンス⑥）。また兵庫県・伊丹市・西宮市・西宮神社・小西酒造長寿蔵・白鹿記念博物館・阪神電鉄などとの連携による「地域ツーリズム演習」を 2022 年から実施している（前掲、エビデンス⑦）。

５．改善への努力と今後の目標

ゼミナールにおいてはマップ制作やイベントへの参加を通じて大学時代にしか得られない貴重な経験となっている一方で、より積極性のある姿勢を求めたいと考えている。本学の学生に限ったことではないが、与えられたことは無難にこなす一方で、応用力、創造力が不足している傾向も見られる。それは抽象的な課題を与えられた時に顕著であり、複雑化する現代の課題に対応できるような幅広い視野と主体性を身につけられるような教育が今後の課題である。

今後の目標としては、2030 年の現代社会学部にはなくてはならないメジャーとして、さらなるカリキュラムの充実と魅力ある科目や地域連携活動の外部への PR によって優秀な人材が集まるようなアドミッション活動を重視していく。

【添付資料】

①神戸新聞 NEXT2022.6.2 配信記事　https://www.kobe-np.co.jp/news/sougou/202206/0015353862.shtml

②大学ホームページ「TOPICS」2022.11.29 配信記事　https://www.otemae.ac.jp/news/17040

③大学ホームページ「TOPICS」2022.3.28 配信記事　https://www.otemae.ac.jp/news/17539

④大学ホームページ「TOPICS」2023.12.11 配信記事　https://www.otemae.ac.jp/news/19368

⑤「観光の道しるべ」PDF 教材資料（エルキャンパスに掲載）

⑥「西宮まち・ひと・しごとリレー講義」シラバス（UNIVERSAL PASSPORT 参照）

⑦「地域ツーリズム演習Ⅰ（伊丹と灘の酒文化）」シラバス（UNIVERSAL PASSPORT 参照）

⑧大学ホームページ「TOPICS」2023.12.20 配信記事 https://www.otemae.ac.jp/news/19487